

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業 (21 社)

【自動車メーカー】(10 社)

日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機

【自動車部品メーカー】(7 社)

トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、アイシン、小糸製作所、豊田合成、ニフコ

【タイヤメーカー】(4 社)

横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業

(証券コード協議会銘柄コード順)

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	1	10
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	15
計		8	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 23 名 (所属先 17 社) である。(氏名等は後掲)

3. 評価結果

(1) 総括 (「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲)

- ① 本年度は、項目数・内容、配点を一部見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.4 点 (昨年度 64.8 点)、総合評価点の標準偏差は 7.3 点 (昨年度 6.5 点) であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、タイヤメーカー (4 社) 67.8 点 (昨年度 65.9 点)、自動車部品メーカー (7 社) 63.9 点 (昨年度 64.1 点)、自動車メーカー (10 社) 63.4 点 (昨年度 64.8 点) となった。タイヤメーカーは昨年度に続き総合評価平均点を伸ばした。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率 (評価対象企業の平均点 / 配点 (以下省略)) を見ると、**経営陣の IR 姿勢等** が 66% (昨年度 67%)、**説明会等** が 70% (昨年度 69%)、**フェア・ディスクロージャー** が 72% (昨年度 73%)、**ESG 関連** が 62% (昨年度 60%)、**自主的情報開示** が 60% (昨年度 63%) となった。
- ④ 評価項目について見ると、70%以上となったものは次の 2 項目 (**説明会等** の項目 (a)、**フェア・ディスクロージャー** の項目 (b)) であった。そのほかは全て 60% 台であった。

- (a) 「説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか」(平均得点率 70% [昨年度 69%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)) : 50%台 2 社・60%台 6 社・70%台 13 社)
 - (b) 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示 (メディア対応を含む) に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容 (質疑応答を含む) を日英両言語でタイムリーに提供していますか」(平均得点率 72% [昨年度 73%]) (得点率 : 60%台 7 社・70%台 11 社・80%台 3 社)
- ⑤ ESG 関連の 3 項目は次のとおりとなった。
- (a) 「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していますか。また、適切にアップデートしていますか」(平均得点率 60% [昨年度 56%]) (得点率 : 40%台 1 社・50%台 12 社・60%台 5 社・70%台 3 社)
 - (b) 「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか (社会に関する情報、人的資本など)」(平均得点率 66% [昨年度同率]) (得点率 : 50%台 3 社・60%台 12 社・70%台 5 社・80%台 1 社)
 - (c) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか」(平均得点率 61% [昨年度同率]) (得点率 : 30%台 2 社・50%台 5 社・60%台 9 社・70%台 3 社・80%台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 ブリヂストン (ディスクロージャー優良企業 [2 回連続 2 回目]、総合評価点 78.6 点 [昨年度比+2.7 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 84%)、ESG 関連 (80%) が第 1 位、説明会等が第 2 位 (78%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位 (80%)、自主的情報開示が第 4 位 (66%) となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップは企業価値向上への意識が極めて高く、IR における説明も積極的との声 (P1) が寄せられたほか、IR 部門には経営状況に関する情報が集約されているとの声もあった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」は昨年度に比べ得点率が改善し、第 2 位 (昨年度第 5 位) となった。これに関連して、説明資料は定量情報の開示項目が増えるなど充実しているとの声や、中期事業計画の進捗状況の説明を評価する声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示 (メディア対応を含む) に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容 (質疑応答を含む) を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 2 位 (昨年度同得点第 3 位) となった。これに関連して、日英両言語での説明会動画の配信を評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」および「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること (社会に関する情報、人的資本など)」が共に最も高い評価となった。「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、ESG への意識やビジネスモデルを積極的に情報開示しているとの声や、脱炭素、ESG 情報の開示内容のレベルも高いとの声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 4 位となった。これに関連して、経営トップによるスモールミーティングや、中期事業計画のアップデートを評価する声があった。一方、今後、工場見学会再開を期待する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 デンソー（総合評価点 76.1点〔昨年度比+1.5点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位（79%）、ESG 関連が第2位（76%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第3位（73%）、説明会等が同得点第3位（76%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が昨年度に比べ得点率を改善し、同得点第2位（昨年度第8位）となった。これに関連して、決算説明会の説明がわかりやすい、経営の考え方について透明性が高いとの声が寄せられた。なお、経営トップ（社長）の決算説明会への参加を望む声があった。「IR 部門の機能」については第9位にとどまった。これに関連して、企業規模に応じた IR 部門の体制充実や個別取材を原則受け付けていない点の改善を望む声があった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」は同得点第3位となった。これに関連して、決算説明会後のフォローを評価する声や、インタビューにおける数値の開示が充実しているとの声が寄せられた。なお、主要な個別製品の売上高、利益の開示を望む声や、事業セグメント群を一貫したものとしてほしいとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第2位（昨年度同得点第3位）となった。これに関連して、ウェブサイトにて、決算説明会の質疑応答を英語で掲載していることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が昨年度に比べ得点率を改善し、同得点第1位となった。これに関連して、株主還元方針が明確に示されているとの声が寄せられた。また、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」および「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること（社会に関する情報、人的資本など）」が共に第2位となった。これらに関連して、統合報告書などの環境開示レベルが高いとの声があった。なお、商品群ごとの具体的な技術ロードマップや将来の事業規模などの開示を望む声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は最も高い評価となった。これに関連して、ダイアログデー、半導体戦略説明会、安城製作所見学会などの開催を高く評価する声が寄せられた。

第3位 豊田合成（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 72.2点〔昨年度比+0.7点〕、昨年度第3位〔一昨年度第2位〕

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位（82%）、経営陣の IR 姿勢等（74%）、自主的情報開示（78%）が第2位、ESG 関連が第5位（67%）、説明会等が同得点第10位（72%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第4位となり、「経営陣の IR 姿勢」も同得点第4位となった。これらに関連して、セーフティシステム事業見学会、技術展示会の開催を含めて IR を強化していることや、開示の姿勢が優れていることを評価する声が寄せられた。なお、経営トップとの対話機会の多さを評価しつつも、社長との接点がやや減ったとの声があった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」は同得点第10位となった。これに関連して、地域別の利益増減要因が開示されているなど、開示資料における定量情報が充実しているとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は最も高い評価となった。これに関連して、各種イベントの内容や説明会での質疑応答要旨をウェブサイトに掲載していることを評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること（社会に関する情報、人的資本など）」が第3位となり、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、

中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」は第6位となった。「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」(第10位)は平均得点率程度にとどまった。これらに関連して、SRミーティングの開催など積極的な開示を評価する声が寄せられた。なお、資本政策、株主還元を含む財務戦略について十分な説明を望む声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」はトップと僅差の第2位となった。これに関連して、各種事業説明会、見学会の内容を評価する声が多く寄せられたほか、成長分野であるエアバックの工場見学会や米国拠点でのスモールミーティングの開催など投資家の期待に応える積極的な開示姿勢を評価する声もあった。

同社は、3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続維持している企業**」に選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (自動車・同部品・タイヤ)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャリー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5108 プリヂストン	78.6	21.0	1	7.8	2	8.0	2	31.9	1	9.9	4	1
2	6902 デンソー	76.1	18.3	3	7.6	3	8.0	2	30.3	2	11.9	1	2
3	7282 豊田合成	72.2	18.4	2	7.2	10	8.2	1	26.7	5	11.7	2	3
4	7203 トヨタ自動車	71.7	17.8	6	7.6	3	7.3	10	27.7	3	11.3	3	4
5	7270 SUBARU	67.9	17.8	6	7.9	1	7.7	6	24.9	10	9.6	10	5
6	3116 トヨタ紡織	66.8	16.8	12	7.4	6	7.2	11	25.7	6	9.7	5	12
7	7201 日産自動車	66.7	17.5	8	6.2	18	7.9	4	25.4	8	9.7	5	6
8	7272 ヤマハ発動機	66.6	16.7	13	7.3	7	7.8	5	25.3	9	9.5	12	8
9	7267 本田技研工業	66.4	16.1	14	7.1	12	7.6	7	26.8	4	8.8	14	9
10	7261 マツダ	65.1	17.0	10	7.5	5	7.5	9	23.4	15	9.7	5	16
11	5101 横浜ゴム	64.7	18.1	4	7.3	7	7.1	13	23.9	14	8.3	15	17
12	5105 TOYO TIRE	64.3	17.3	9	7.3	7	6.8	16	23.3	17	9.6	10	10
13	5110 住友ゴム工業	63.7	15.6	15	7.2	10	7.0	14	24.2	12	9.7	5	14
14	7211 三菱自動車工業	62.9	17.0	10	6.8	14	7.6	7	21.8	19	9.7	5	13
15	7259 アイシン	62.5	14.3	18	6.5	17	6.9	15	25.7	6	9.1	13	11
16	7202 いすゞ自動車	62.1	15.5	16	7.1	12	7.2	11	24.5	11	7.8	17	7
17	7988 ニフコ	61.1	17.9	5	6.6	16	6.0	19	24.2	12	6.4	19	15
18	7269 スズキ	57.6	13.8	19	6.7	15	6.5	17	23.1	18	7.5	18	18
19	7276 小糸製作所	56.6	14.8	17	6.2	18	6.4	18	23.4	15	5.8	20	20
20	6201 豊田自動織機	51.9	11.3	21	5.8	20	6.0	19	20.5	20	8.3	15	19
21	7205 日野自動車	47.4	12.1	20	5.2	21	6.0	19	18.5	21	5.6	21	21
	評価対象企業評価平均点	64.42	16.43		6.97		7.18		24.81		9.03		

2023年度評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
<p>・経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。</p>	15
(2)IR部門の機能	
<p>・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）</p>	10
<p>【経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンスに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（10点）	配点
<p>・説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。</p>	10
<p>【説明会、インタビュー、説明資料等における開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
<p>・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。</p>	10
<p>【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
<p>①脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していますか。また、適切にアップデートしていますか。</p>	20
<p>②脱炭素に限らず、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。（社会に関する情報、人的資本など）</p>	10
<p>③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか。</p>	10
<p>【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（15点）	配点
<p>・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕</p>	15
<p>【各業種の状況に即した自主的な情報開示に関し、評価した説明会名および理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】</p>	

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部会長	箱守 英治	大和証券
部会長代理	高橋 耕平	UBS証券
	安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	岩井 徹	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	楯本 将隆	野村証券
	坂口 大陸	みずほ証券
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（23名）

新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	坂口 大陸	みずほ証券
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	坂牧 史郎	大和証券
石本 涉	野村証券	高田 悟	ティー・アイ・ダウリュ
石山 孝高	みずほ証券	高橋 耕平	UBS証券
岩井 徹	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	田中 健司	アセットマネジメント One
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	成瀬 伸弥	岡三証券
江口 由紀	野村アセットマネジメント	箱守 英治	大和証券
岡田 真一	三菱UFJ信託銀行	花井 美穂	SOMPOアセットマネジメント
木下 壽英	SMBC日興証券	広川 孝一	JPモルガン・アセット・マネジメント
楯本 将隆	野村証券	牧 一統	SMBC日興証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	吉田 有史	シティグループ証券
小西 慶祐	QUICK		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。